

「けやき俳句の会」会報(第百八十一回)

平成三十年七月四日

第百八十一回句会記録

★日時 七月四日

★場所 けやき学習室

★参加者 二十二名

(総数六十六句)

★真樹先生投句

②目交に万緑の水落つるかな

①夏椿落ちてしずかに息してる

釦落す昨日はたしか桜桃忌

★真樹先生選句(◎は特選)

◎◎若竹の節目節目に契あり

◎◎胸のうちはらはらと散る竹落葉

◎◎裸の子蒙古斑ありかくれんぼ

◎◎女郎蜘蛛縦糸ここぞとまず決める

◎◎筆を置き落款押しし夏座敷

◎◎海優し亡母の故郷茂木の枇杷

◎◎赫灼の夏至太陽が海に落つ

◎◎栗の花髪を染めるのもうやめる

◎◎植田に映る秩父連峰なつかしむ

◎◎道の駅郷の土産の山清水

◎◎雲わけて夏落日が山の端に

②夕端居手で梳く髪の細り落つ 要

②店の番言いつけられしすててこに かな太

①竹落葉踏む万歩計裏道へ 秋雲

★会員互選句

④落想の安易は変わらずあめんぼう 香魚

④打水に落照のある湯宿かな 清明

③万緑の息の聞こえる老いの耳 かな太

②葉の先に強く光るや初蛩 香魚

②守宮落つ大黒柱の艶やかさ 香魚

②築地河岸喧噪を往く走り梅雨 青嵐

②落語家の果つる日なり半夏生 冬水

②山迫る露天湯雨と額の花 樹音

②蜻蛉の群れ得意げに街の中 春草

②泡盛のグラス翳せば落暉かな 藍愛

【次回開催】

★日時・八月一日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「休」を含み三句

夢城

東洋

冬水

要

清明

夕佳

夕佳

東洋

青嵐

紀泉

蕉哉